

## 先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 実績報告書

本様式の内容は一般に公表されません

研究課題名	看護卒後教育によるmid-level-provider育成と医療提供イノベーション
研究機関・部局・職名	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授
氏名	井上 智子

1. 研究実施期間 平成23年2月10日～平成26年3月31日

2. 収支の状況

(単位:円)

	交付決定額	交付を受けた額	利息等収入額	収入額合計	執行額	未執行額	既返還額
直接経費	82,000,000	82,000,000	0	82,000,000	81,854,894	145,106	
間接経費	24,600,000	24,600,000	0	24,600,000	24,600,000	0	
合計	106,600,000	106,600,000	0	106,600,000	106,454,894	145,106	0

3. 執行額内訳

(単位:円)

費目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計
物品費	1,047,900	8,319,295	672,890	446,532	10,486,617
旅費	0	5,733,034	2,858,105	1,036,618	9,627,757
謝金・人件費等	0	13,761,196	15,987,787	2,463,227	32,212,210
その他	0	8,938,575	10,726,468	9,863,267	29,528,310
直接経費計	1,047,900	36,752,100	30,245,250	13,809,644	81,854,894
間接経費計	314,118	11,025,882	9,075,000	4,185,000	24,600,000
合計	1,362,018	47,777,982	39,320,250	17,994,644	106,454,894

4. 主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関名
ベッドサイドモニター	BSM-2301	1	997,500	997,500	2011/7/20	東京医科歯科大学
ワイヤレス高機能患者シミュレーター ME	米国METI社製	1	5,481,000	5,481,000	2011/8/18	東京医科歯科大学
				0		

5. 研究成果の概要

看護職への卒後教育により、日本におけるmid-level providerとしての高度実践看護師(以後、Advanced Practice Nurse: APN)を育成し、APNによる医療提供システム構築への提言を行うことを目的とした。連続するシンポジウムとフォーラムでAPNのあり方と教育について検討し、作成したAPN教育案を、オンライン教育環境の整備によって計354名に対する教育を行った。日本でのAPN育成は、専門看護師からの移行教育によって推進可能であり、教育を受けた専門看護師らが役割拡大を先導することで日本への導入が推進される。また、大学院教員へのTrains-trainers approachによって効率性が高まると考えられる。またAPNの存在がcureとcareの融合、すなわち治療と生活の結びつけやcureを起点とした新たなケアの考案、これまでのcureの形を変化させる可能性がある。またAPN看護職の役割拡大の本質的要素が明らかとなり、新たな医療提供の可能性が提示された。事業の成果は現在145校存在する看護系大学院へ、学会、機関誌等によって情報発信しており、各大学院への波及効果が見込まれる。

課題番号	LZ005
------	-------

## 先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 研究成果報告書

本様式の内容は一般に公表されます
------------------

研究課題名 (下段英語表記)	看護卒後教育における mid-level-provider 育成と医療提供イノベーション
	Development of Postgraduate Educational Program for Mid-Level Providers
研究機関・部局・ 職名 (下段英語表記)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授
	Tokyo Medical & Dental University, Graduate School of Health Care Sciences, Professor
氏名 (下段英語表記)	井上 智子
	INOUE TOMOKO

### 研究成果の概要

(和文):看護職への卒後教育により、日本における mid-level provider としての高度実践看護師(以後、Advanced Practice Nurse: APN)を育成し、APN による医療提供システム構築への提言を行うことを目的とした。連続するシンポジウムとフォーラムで APN のあり方と教育について検討し、作成した APN 教育案を、オンライン教育環境の整備によって計(354)名に対する教育を行った。日本での APN 育成は、専門看護師からの移行教育によって推進可能であり、教育を受けた専門看護師らが役割拡大を先導することで日本への導入が推進される。また、大学院教員への Trains-trainers approach によって効率性が高まると考えられる。また APN の存在が cure と care の融合、すなわち治療と生活の結びつけや cure を起点とした新たなケアの考案、これまでの cure の形を変化させる可能性がある。また APN 看護職の役割拡大の本質的要素が明らかとなり、新たな医療提供の可能性が提示された。事業の成果は現在 145 校存在する看護系大学院へ、学会、機関誌等によって情報発信しており、各大学院への波及効果が見込まれる。

(英文): By developing and providing continuing education for nurses, we tried to promote nursing career as Advanced Practice Nurse (APN). The purpose of this project was to make recommendations for restructuring of current system of health care delivery. We held the series of symposiums and forums to discuss about roles and functions of APN in Japan as well as educational programs at graduate level. The trial educational program developed in this project

## 様式21

was opened for the total 354 nurses through online. Acquiring roles and functions of Advanced Practice Nurses in Japan will be possible through the transitional education from Certified Nurse Specialist. Those CNSs will be expected to leading APNs in Japan by expanding their autonomy. Train-trainers approach was identified to be an effective educational method. APN will be contribute for integrating cure and care, connecting treatment and daily life, and creating new care starting with cure which all reforming current medical-oriented goal of cure. Our project revealed that the specific nature of role expansion of nurses and suggested the possibilities of new health care delivery system.

1. 執行金額 106,454,894 円  
(うち、直接経費 81,854,894 円、 間接経費 24,600,000 円)

2. 研究実施期間 平成23年2月10日～平成26年3月31日

### 3. 研究目的

(1)日本における mid-level provider(高度実践看護師)の役割・機能と教育プログラム作成

人々の健康生活や QOL の維持・向上に貢献する、①日本における mid-level provider(以後、高度実践看護師)の役割・機能を明確にし、②治療(cure)と看護(care)の融合による治療・療養生活支援を可能とする高度実践看護師の育成を目指す。看護職の役割拡大の検討の中で、看護ケア(care)と医療行為・医療処置(cure)の融合による看護実践によって、患者の日常生活、主体性に応じた医療提供が可能となる。また常に患者のベッドサイドに存在する看護職をベースにした高度実践看護師が治療計画に深く関与することで、患者の回復、退院、家庭や職場への復帰までも見通した早期からの患者教育やセルフケア管理の指導が可能となる。

(2)高度実践看護師の養成(専門看護師からの移行教育)のためのシステム整備

作成した教育プログラムに基づき、教育を開始する。教育プログラムは、いつでもどこでも学ぶことが出来るよう on demand 化をはかり、オンライン教育のための教育環境を整備する。教育の対象者は現在我が国に 650 名(平成 22 年当時、現在 1,044 名)存在する看護系大学大学院を修了した専門看護師、ならびに看護系大学院に在籍する大学院生とする。さらにオンライン教育で学んだ内容の一層の定着をはかるため、この領域で実績のある招聘海外講師による教育を実施する。オンライン教育と海外講師招聘は継続して実施していく。また mid-level provider 教育に関して先進的な諸外国に実績のある専門看護師を派遣して、実践的なノウハウを身につけることも含む。

(3)高度実践看護師を核とした新たなケア提供のあり方追求

社会の変化や疾病構造、人々の健康意識や生活・療養スタイルの変化に応じた医療のシステム改革、すなわち mid-level provider(高度実践看護師)が関与する新たな医療提供システムの提言を行う。また我が国における mid-level provider の誕生や定着のためには、法整備や改正が必

要になるが、本事業成果がその検討のための基礎資料として役立つものとなることを目指す。

#### 4. 研究計画・方法

##### (1)日本における高度実践看護師のあり方と、教育プログラムの検討

###### ①連続するシンポジウム・フォーラムによる検討

日本における mid-level provider のあり方と教育について検討するために、3 年間にわたり課題設定のもとシンポジウム・フォーラムで意見交換を重ね、成果を積み上げ行くことを目指す。方法は、内外の文献や情報収集、先進諸国の実情調査に加え、継続的な国内外の会議、シンポジウム、フォーラムなどによって、看護卒後教育(看護系大学院教育)による高度実践看護師の役割・機能の明確化と、教育プログラムの作成に着手する。3年にわたり、「APN 育成に関するフォーラム」と、戦略会議から導かれたテーマによる年2回の「日本におけるAPNのあり方と育成に関する国際シンポジウム」を開催する。「APN 育成に関するフォーラム」では、教育内容、方法、教育者、医療制度のあり方など、継続的・連続的なテーマを設定し、討議内容は公開、定期的に発信していく。その成果をもとにシンポジウムの内容を企画し、広く意見交換を行う。

###### ②専門看護師の派遣研修による我が国への導入に向けた検討

指導的立場にある専門看護師を米国に派遣し、我が国への導入に向けた検討を行う。

##### (2)高度実践看護師育成のための教育(共通科目B)ならびにヘルスアセスメント演習の実施

###### ①教育プログラムとしての共通科目B(3科目)のシラバス作成

連続するフォーラム・シンポジウム、文献や米国でのAPNシラバス等の検討をもとに、日本における高度実践看護師(APN)育成のための共通科目Bの3科目(ヘルスアセスメント、病態生理学、臨床薬理学:各2単位)のシラバスを作成する。作成したシラバスについては、その妥当性の確認のため、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会に提出する。

###### ②共通科目Bのオンライン教育のための教育環境整備

作成した教育プログラムに基づき、3P 科目のオンライン教材を作成し配信した上で教育を開始する。教育プログラムはいつでもどこでも学べるようインターネットによるオンライン教育として教育環境を整備する。教育の対象者は平成25年現在1,044名存在する専門看護師、ならびに専門看護師を教育する看護系大学院教員等のうち希望者とする。さらにオンライン教育で学んだ内容の一層の定着をはかるため、この領域で実績のある招聘海外講師による演習を実施する。演習では受講者が次の指導者となれるよう Trainers – trainers approach 法を用いることとする。

##### (3)高度実践看護師を核とした新たなケア提供のあり方追求

社会の変化や疾病構造、人々の健康意識や生活・療養スタイルの変化に応じた医療のシステム改革、すなわち mid-level provider(高度実践看護師)が関与する新たな医療提供システムの提言を行う。また我が国における mid-level provider の誕生や定着のためには、法整備や改正が必要になるが、本事業成果がその検討のための基礎資料として役立つものとなることを目指す。

5. 研究成果・波及効果

(1)日本における高度実践

①看護師のあり方と、教育プログラムの検討

1.我が国における高度実践看護師の役割・機能の明確化:国内外の会議や連続する5回の国際シンポジウム、8回のフォーラム(表1)により、高度実践看護師の役割・機能の明

表1 シンポジウム・フォーラムの構成と実施時期

年度	シンポジウム	フォーラム
2011	第1回 2011.5.28 「急性心不全実践看護の教育」 第2回 2012.1.21 「米国における高度実践看護の現状と課題」	第1回 2011.5.13 「急性心不全」 第2回 2011.5.19 「これからの高度実践看護の役割とエビデンス」 第3回 2011.11.17 「日本における高度実践看護の役割とエビデンス」 第4回 2012.2.28 「急性心不全実践看護の国際的展開に向けて」
2012	第3回 2012.6.20 「日本における急性心不全看護の現状と課題・教育・研究からみた実践的課題」 第4回 2012.7.9 「高度実践看護の発展に向けて国際シンポジウムの活用」	第5回 2012.7.28 「急性心不全実践看護の国際的展開と日本における高度実践看護の役割」 第6回 2013.3.14 「急性心不全実践看護の国際的展開」
2013	第5回 2013.11 「高度実践看護の発展に向けた国際的展開と課題」	第7回 2013.9 「急性心不全実践看護の国際的展開」 第8回 2014.7.15-16 「急性心不全実践看護の国際的展開」

確化をはかり、その成果についてはシンポジウム、機関誌で報告した。

②専門看護師の派遣研修による我が国への導入に向けた検討

3 専門領域(がん、クリティカルケア、小児)計6名を米国に派遣した。退院後も見据えた治療・医療処置実施を取り込んだ卓越したケアの実施が不可欠であり、さらに多職種連携の調整役割を超え、多職種を総括するリーダーとしての役割が期待されていることが明らかとなった。

(2)高度実践看護師の養成(専門看護師からの移行教育)のためのシステム整備

表2 共通科目Bの学習内容(3科目のシラバス)

№	ヘルスアセスメント	薬理薬理学	薬理薬理学
1	呼吸のアセスメント①	問診・視診・触診	呼吸器
2	呼吸のアセスメント②	聴診	呼吸器
3	呼吸のアセスメント③	脈診	呼吸器
4	呼吸のアセスメント④	問診・聴診・触診	呼吸器
5	循環系アセスメント①	問診・聴診	循環系
6	循環系アセスメント②	問診・聴診	循環系
7	消化器アセスメント①	問診・聴診	消化器
8	消化器アセスメント②	問診・聴診	消化器
9	泌尿器アセスメント	問診・聴診	泌尿器
10	血液	問診・聴診	血液
11	内分泌	問診・聴診	内分泌
12	神経	問診・聴診	神経
13	皮膚	問診・聴診	皮膚
14	眼	問診・聴診	眼
15	耳鼻	問診・聴診	耳鼻

欧米大学院のシラバス等をもとに、科目責任者とともに会議を重ね、現在の専門看護師教育から高度実践看護師への移行教育に必要な表2の教育内容を明らかにした。

①オンラインシステムの構築・完全稼働

受講者の利便性を第一とし、Personal Computer 環境のみならず、iPad、スマートフォンも想定し、また安全性等管理面の問題から新たに独自のサーバーを設置した。講義は「ビデオオンデマンド」方式であるが、任意の箇所での停止・巻き戻し等を可能とし、学習進度に添えるよう設計した。教育内容は3科目合計23名の講師陣による原稿作成、編集業務によって学習コンテンツを作成し平成24年度当初には完全稼働となった。

②受講生の募集と教育状況

応募動機による書類選考で選抜、IDを発行しオンライン教育を開始した。開始後の受講状況については随時HP上に公表していったが第1期生(169名)、第2期生(185名)の受講修了率は3科目平均78%であり、全科目修了書を発行した。

③オンライン教育による共通科目受講生への実践力強化(演習)

米国 Nurse Practitioner 教育課程教員を招聘し、ヘルスアセスメントを軸とする実践力強化の演習(3日間)を2回実施した。オンライン教育を終えた計61名が参加し、2年目には受講者から育てた5名の指導者が講師陣に参加した。演習実施後には、参加者・実施者側からの修了後評価を行った。新たな知識・技術の獲得はもとより、既存の知識の確認、APNとしての行動をイメージすることで、受講を

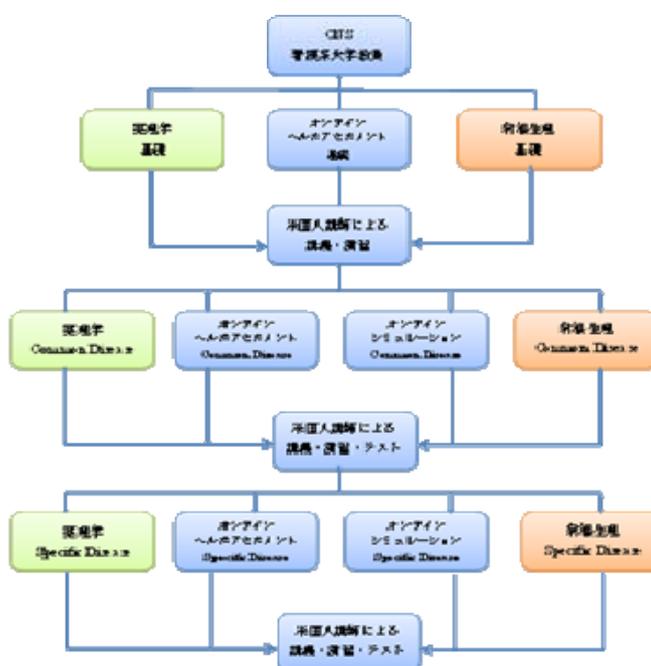


図 共通科目(3科目)と演習との関連図

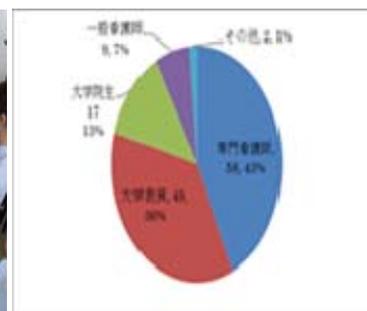
オンライン学習画面



演習風景



演習受講生の内訳



通して APN 教育に求められるもののイメージがついたとの回答もあった。

これらの成果は本事業にとどまらず、全国の看護系大学院教育、専門看護師が所属する医療機関において、資料等をもとに教育を継続することが可能である。

(3) 高度実践看護師を核とした新たなケア提供のあり方追求

専門看護師への聞き取り調査の結果より「キュアとケアを融合した看護ケアの内的構造」の解明に取り組み、その成果(融合の4各要素:治療と生活を結びつけていく、患者に合わせた治療を作り出す、キュアを起点とした新たなケアを生む、従来のキュアの形を変化させる)について公表(投稿中)、残りのデータについても分析、投稿準備を進めている。新たな医療提供システム提案に関しては、専門看護師(氏名公表者 985 名)への全数調査を行い、234 名(回答率 24%)のデータを得た。診療の補助行為に対する看護師の裁量範囲の実態(現在の看護師の裁量範囲・将来的な看護師の裁量範囲)、高度実践看護師・専門看護師に期待される裁量権拡大の認識について明らかにし公表した。

新たな医療提供システム構築のためには2つのルートがあること①先駆者集団が必要なケア・キュアを自ら創出・実施する、②(ジェネラリストナースによる)看護チームへの導入口であることを当初から認識し実践・定着を目指すことと、看護職がすべきその内容としては、①患者の苦痛・不安の軽減に繋がる、②迅速性が確保される、③キュア(医療処置)の質向上が見込まれる、④実施によって看護師の実践能力が向上する医療処置を選択し、医療機関・在宅等において導入できるように設計図を描く必要がある。

日本における高度実践看護師のあり方とともに、その教育を継続する一方で、教育を受けた人々がその知識・技術を活かす医療提供のあり方を考案・提案して行く必要があるが、本事業において役割拡大(Care と Cure の融合)の内的構造)や役割・機能を変革していく際に必要な要素を提供できたことは、様々な医療現場において本事業成果の適用可能性を高めることに貢献する。

6. 研究発表等

<p>雑誌論文 計 13 件</p>	<p>(掲載済みー査読有り) 計 4 件                  ・井上智子:看護師の役割拡大とクリティカルケア領域での未来像、一特定看護師(仮称)創設の動きの中で、日本クリティカルケア看護学会誌、2011,7(1)1-7.                  ・佐々木吉子、井上智子、川本祐子:米国における看護補助者の実態・教育等の実情、お茶の水看護研究学会誌、2012、6(1):105-111.                  ・井上智子:ケアとキュアの融合を基盤とする看護実践の発展、日本看護科学学会誌、2012、32(2):87-88.                  ・瀧口千枝、井上智子、佐々木吉子:人工呼吸器装着患者における看護師の多職種チーム調整機能の構造、日本クリティカルケア看護学会誌、2013、9(3):1-12.</p> <p>(掲載済みー査読無し) 計 9 件                  ・井上智子:共通科目 B の開講に向けて、APN、2012、2:2-3.                  ・井上智子:再生から未来へ:看護学探究者からの発信、日本看護科学学会誌、2013、33(2):1-4.                  ・井上智子:APN大学院教育での病態、薬理、フィジカルアセスメント科目の導入における課題、看護卒後教育による mid-level provider 育成と医療提供イノベーション(事業主任研究者、連携会</p>
------------------------	---

	<p>員)、日本学術会議看護分科会・日本看護系学会協議会、2013年5月、日本学術会議看護分科会 HP 掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前田留美、丸光恵、井上智子: 第1期オンライン教育を終えて、APN (Advanced Practice Nursing)、2013,4:2-5.</li> <li>・井上智子: 専門看護師の軌跡と看護職の更なる躍進に向けて、APN (Advanced Practice Nursing)、2014,5:10-15</li> <li>・瀧口千枝、佐々木吉子、前田留美、井上智子、丸光恵、川本祐子: 2012年度3P科目オンライン教育プログラムの評価 —受講者アンケート調査(修了時)より—、APN (Advanced Practice Nursing)、2014、5:16-22.</li> <li>・川本祐子、井上智子、丸光恵、佐々木吉子、前田留美: 裁量権の拡大に関する専門看護師の認識調査の概要、APN (Advanced Practice Nursing)、2014、5:23-27.</li> <li>・井上智子、丸光恵、佐々木吉子、前田留美、川本祐子: 国民との科学・技術対話「広がる看護職の仕事 2013」、APN (Advanced Practice Nursing)、2014、5:30-32.</li> <li>・井上智子: 本事業の終盤を迎えて、APN (Advanced Practice Nursing)、2014,5:2-3.</li> </ul> <p>(未掲載) 計0件</p>
<p>会議発表 計 30 件</p>	<p>専門家向け 計 14 件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井上智子: ケアとキュアの統合を基盤とする看護実践の発展 —看護教育・制度の視点から—、高知、第31回日本看護科学学会学術集会抄録集、2011,128.</li> <li>・井上智子: 機能する医療チーム、特別企画 医療を語る I 小テーマ4チーム医療のあり方、東京、第28回日本医学会総会 2011、東京、40.</li> <li>・井上智子: ケアとキュアの融合を基盤とする看護実践の発展(シンポジウム I)、東京国際フォーラム、2012年12月1日、第32回日本看護科学学会学術集会.</li> <li>・井上智子: これからの看護スペシャリストのありよう(看護セッション: 「チーム医療時代の看護職モチベーションアップ」)、国際モダンホスピタルショー、東京ビッグサイト、2012年7月20日、日本経営協会.</li> <li>・Mitsue Maru, Tomoko Inoue, Yoshiko Sasaki, Yuko Kawamoto, A new method to provide basic class of pathophysiology, pharmacology and health assessment for graduate students in Japan. London, 2012年8月20日、ICN Nurse Practitioner / Advanced Practice Nursing Network.</li> <li>・井上智子: 看護学生のキャリアデザイン教育の実際と今後の構想、シンポジウム I 看護基礎教育におけるキャリアデザイン教育の現状と発展、第22回日本看護学教育学会学術集会講演集、92、2012年8月4日</li> <li>・井上智子: 特別講演「看護師の役割拡大と課題」石川県かほく市、2012年8月7日、石川県看護教員養成講習事業.</li> <li>・小池智子、佐々木吉子、山崎智子、内堀真弓、矢富有見子、川本祐子、青木春恵、本田彰子、井上智子: チーム医療推進における看護師と看護補助者の連携と業務分担の実態、東京国際フォーラム、2012年11月30日~12月1日、第32回日本看護科学学会学術集会.</li> <li>・川本祐子、井上智子、佐々木吉子、北村愛子: 専門看護師による急性期心臓リハビリテーションのプログラム管理の安全性と効果についての検討、東京国際フォーラム、2012年11月30日~12月1日、第32回日本看護科学学会学術集会.</li> <li>・井上智子: APN大学院教育での病態、薬理、フィジカルアセスメント科目の導入における課題、看護卒後教育による mid-level provider 育成と医療提供イノベーション(事業主任研究者・連携会員)、日本学術会議看護分科会・日本看護系学会協議会、意見交換会、新大阪丸ビル、2013年3月30日、日本学術会議看護分科会.</li> <li>・Yuko Kawamoto, Tomoko Inoue, Mitsue Maru, Yoshiko Sasaki, Rumi Maeda: Perceptions of Clinical Nurse Specialists on the Expansion of Nurse Discretion in JAPAN, Manila, Philippines, 2014.2.20~21, East Asian Forum in Nursing Scholars (EAFONS).</li> <li>・井上智子: 急性期看護における連携のあり方を考える「看護教育者の立場から」、第44回日本看護学会-成人看護 I-抄録集、和歌山、2013年10月24日、日本看護学会</li> <li>・井上智子: チーム医療と看護師の役割、第2回日本感染管理ネットワーク学術集会、プログラム・抄録集、大阪、2013年5月24日.</li> </ul>

<p>・井上智子:ケアとキュアが融合した集中ケア看護、第41回日本集中治療医学会学術集会プログラム・抄録集、京都、2014.2.28</p> <p>(自ら企画 計12件)</p> <p><b>シンポジウム:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:動き出す高度実践看護師教育、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第1回国際シンポジウム、東京、2011年7月9日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:米国における高度実践看護師の現状と課題、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第2回国際シンポジウム、東京、2012年1月21日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:日本における高度実践看護師のあり方:臨床・教育・研究からみた諸問題の検討、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第3回国際シンポジウム、東京、2012年6月10日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:高度実践看護師育成に向けた演習(シミュレーション教育)の実際、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第4回国際シンポジウム、東京、2013年2月9日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:高度実践看護師を核とした新たな医療提供システムへの提言、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第5回国際シンポジウム、東京、2013年11月17日。</li> </ul> <p><b>フォーラム:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:全体計画、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第1回フォーラム、東京、2011年5月13日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:これからの高度実践看護師のコア・コンピテンシー、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第2回フォーラム、東京、2011年9月9日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:日本における高度実践看護師のスコープ・オブ・プラクティス、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第3回フォーラム、東京、2011年12月17日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:新しい教育方法:高度実践看護師養成に向けて、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第4回フォーラム、東京、2014年2月18日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:米国の APN の実情を踏まえた日本における APN 活動の展望と課題、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第5回フォーラム、東京、2012年12月20日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:ヘルスアセスメント演習(第1回)、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第6回フォーラム、東京、2013年3月12~14日。</li> <li>・井上智子(開催代表者)、丸光恵、佐々木吉子、川本祐子、前田留美:ヘルスアセスメント演習(第2回)、最先端・次世代研究開発支援プログラムー看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーションー第7回フォーラム、東京、2014年2月12~14日。</li> </ul> <p>一般向け 計4件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井上智子、丸光恵、佐々木吉子:拡がる看護職者の仕事「社会のニーズに応える看護を求めて」、最先端・次世代研究開発支援プログラム「国民との科学・技術対話」、高</li> </ul>
--

	<p>知城ホール(高知市)、2011年12月3日。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井上智子、丸光恵、佐々木吉子: 拡がる看護職者の仕事「社会のニーズに応える看護を求めて」、最先端・次世代研究開発支援プログラム「国民との科学・技術対話」、東京国際フォーラム、2012年12月1日。</li> <li>・井上智子、丸光恵、佐々木吉子: 拡がる看護職者の仕事「社会のニーズに応える看護を求めて」、最先端・次世代研究開発支援プログラム「国民との科学・技術対話」、大阪国際会議場、2013年12月7日。</li> <li>・井上智子: 看護卒後教育による mid-level provider 育成と医療提供イノベーション(ポスターセッション)、FIRST EXPO 2014、ベルサーレ新宿グランド、2014年2月28日。</li> </ul>
図書 計5件	<p>機関誌発行:「Advanced Practice Nursing」日本における初めての高度実践看護の専門誌創刊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井上智子(総監修): APN; 看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業 機関誌創刊号、2012年7月、総ページ数40。</li> <li>・井上智子(総監修): APN; 看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業 機関誌2号、2012年7月、総ページ数46。</li> <li>・井上智子(総監修): APN; 看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業 機関誌3号、2013年1月、総ページ数32。</li> <li>・井上智子(総監修): APN; 看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業 機関誌4号、2013年7月、総ページ数34。</li> <li>・井上智子(総監修): APN; 看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業 機関誌5号、2014年2月、総ページ数56。</li> </ul>
産業財産権 出願・取得 状況 計0件	<p>(取得済み) 計0件</p> <p>(出願中) 計0</p>
Webページ (URL)	<p>活動報告、平成 22～25 年度 独立行政法人 日本学術振興会 先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)「看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション」、<a href="http://www.adnr.jp/">http://www.adnr.jp/</a></p> <p>看護卒後教育による MLP 育成(twitter)、@apnjp</p> <p>看護卒後教育による mid-level provider 育成(face book)、<a href="https://ja-jp.facebook.com/adnrjp">https://ja-jp.facebook.com/adnrjp</a></p>
国民との科学・技術対話の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 31 回 日本看護科学学会学術集会 最先端・次世代研究開発支援プログラム 広がる看護職者の仕事-「日本における高度実践看護師教育の具現化を目指して」看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業、2011年12月3日、高知城ホールにおいて一般市民、医療従事者、看護教員を対象者として実施。主に一般市民、看護職者、医療従事者ら30名程度参加し、本事業内容の概要について説明し、その後質疑応答を行った。</li> <li>・第 32 回 日本看護科学学会学術集会 最先端・次世代研究開発支援プログラム 広がる看護職者の仕事-「日本における高度実践看護師教育の具現化を目指して」看護卒後教育による Mid-level provider 育成と医療提供イノベーション事業、2012年12月1日、東京国際フォーラム(ホール D5)において一般市民、医療従事者、看護教員を対象者として実施。マスコミ関係者、医療従事者、看護学教育に携わる者が 30 名程度参加し、本事業内容の報告を行い、フロアからは事業を実施することに対し、「先駆的な試みである高度実践看護師教育を是非頑張ってもらいたい」など好意的なご意見を頂いた。</li> <li>・第 33 回 日本看護科学学会学術集会と同時開催で、最先端・次世代研究開発支援プログラム 広がる看護職者の仕事-2013「日本における高度実践看護師教育の具現化を目指して」と題して、2013年12月7日、大阪国際会議場(第9会場)において一般市民、医療従事者、看護教員を対象者として実施した。マスコミ関係者(看護系2社、一般1社)、医療従事者、看護学教育に携わる者が 140 名程度参加し、本事業内容の報告を行ったが、フロアからは厚生労働省検討会や、看護系大学院で養成されている専門看護師育成との関連性について質問が出た。また本事業を実施することに対し、早期の教育開始と事業の継続を望むなど、本邦において高度実践看護師育成が急務であることが改めて浮き彫りとなった。</li> </ul>

## 様式21

	・井上智子、丸光恵、佐々木吉子、前田留美、川本祐子：国民との科学・技術対話「広がる看護職の仕事 2013」、APN (Advanced Practice Nursing)、2014,5:28-29.
新聞・一般 雑誌等掲載 計〇件	
その他	

### 7. その他特記事項

文部科学省医学教育課からの依頼を受け、看護系大学のインターンシップ生の訪問を受け、競争的資金によるプロジェクト運営とその成果について説明した。(平成 24 年度)